

もう一度電話を下さい

斎藤優子

秋田県・五三・主婦

生みの母の名前も住所も解らぬまま、昨年養母の一三回忌を終えたので、一つの区切りとして書きました。

初めてお手紙いたします。

私が貴方を知ったのは小学三年の時でした。男の子から「貰われっ子、拾われっ子やあい」と言われたのがきっかけでした。貴方に会って、どうして私を捨てていったのか聞きたい。毎日そのことを思っていました。

周りから何度も言われているうちに「私を捨てていった貴方を殺して、自分も死んでやるんだ」と良からぬことばかり考え、心はいつの日か鬼と化していましたよ。そんな中で一五年もの月日が流れていました。貴方は私の胸の内など知らなかったでしょうね。

優秀賞

ある日突然電話を下さいましたね。私が独りでいるのを貴方は感じたのでしょうか。受話器を取った私にいきなり、「優子さんごめんね、電話を切らないでください」と言いましたね。私はあれもこれも言いたかったのに涙が溢れるだけで何も言えませんでした。長い沈黙の後で「会いたくないです」と言ったことを覚えています。あの時貴方は悲しかったでしょうね。本当は会いたい気持ちでいっぱい、話したいことも沢山あったのに、素直になれない自分でした。許してくださいね。

私の声今でも覚えていますか。早いものです。あれから三〇年にもなるんですね。「ごめんね」と言った貴方の声が昨日のことに私の耳に響きます。

今私は二人の子の母となり、貴方を想い、見つめています。今さら理由や事情を問うつもりはありません。きっと私の幸せを考え、悩み抜いた決断だと信じています。

優秀賞

若かりしあの頃の、鬼と化した貴方への思いも、今では遠い過去の事となりましたよ。

ぜひもう一度電話を下さい。貴方に会いたい気持ちでいっぱいです。その時は「生んでくれてありがとう」と言いながら、貴方を思いきり抱きしめてあげたいです。